

3. 環境騒音予測モデルの作成

表-7 環境騒音予測モデル

予測モデルの種類		目的	重相関係数	説明変数
地点騒音予測モデル	推計式Ⅰ	近く(80~160m以内)に主たる道路がある地点に適用すべきモデル	0.89	<ul style="list-style-type: none"> ・実状土地利用 ・道路 ・主たる道路の距離 ・主たる道路の換算交通量 ・全体建ぺい率
	推計式Ⅱ	主たる道路がない地点に適用すべきモデル	0.74	<ul style="list-style-type: none"> ・実状土地利用 ・道路 ・全体建ぺい率
地区騒音予測モデル	モデルA	土地利用データと建ぺい率を用いて最も精度良く予測できるモデルで、騒音容量の設定基礎とする。	0.84	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地率 ・商業・業務率 ・工業・運輸率 ・幹線道路道路率 ・換算交通量 ・人口 ・全体建ぺい率
	モデルB	土地利用データを用いたモデルで、「13市町」の推計に用いる。	0.79	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地率 ・商業・業務率 ・工業・運輸率 ・幹線道路道路率 ・換算交通量 ・人口
	モデルC	事業所データを用いたモデルで、「13市町を除く全県」の推計に用いる。	0.73	<ul style="list-style-type: none"> ・換算交通量 ・人口 ・2次産業従業者数 ・全産業従業者数

表-8

(1) 推計式Ⅰ……………サンフ

項 目	カ テ ゴ リー
実状 土地利用	1. 良好な住宅地
	2. 標準的な住宅地
	3. 密集住宅地
	4. 住宅・店舗混在地区
	5. 事務所、店舗地
	6. 中心商業地区
	7. 沿線商業地区
	8. 準工、工場地区
	9. 田畑、山林、その
* 1 0.383	
道 路	1. 面さない
	2. 1車線
	3. 2車線
	4. 4車線以上
* 1 0.428	
主たる 道路からの 距離 d	1. 0~10m
	2. 10~20
	3. 20~40
	4. 40~80
	5. 80~160
* 1 0.732	
主たる 道路の換算 交通量 Q	1. 0~4,000台/日
	2. 4,000~12,000
	3. 12,000~30,000
	4. 30,000~60,000
	5. 60,000~
* 1 0.514	
全体 建ぺい率	1. 0~10%
	2. 10~20
	3. 20~30
	4. 30~
* 1 0.124	